国語科学習指導案

令和元年○月○日（○）第○校時
6年2組　指導者　○○　○○

1　**単元名**　題名にこめられた作者の思いを読み取ろう
教材名　「やまなし」（光村図書　6年）

2　**考察**

（1）教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置付け

・C読むこと

イ　登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

オ　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

②伸ばしたい資質・能力

・登場人物の心情や役割を表現や叙述と関係付ける力

・優れた叙述や表現の工夫に着目して、表現の効果を考える力

・人物像登場人物の性格や気持ちの変化を，叙述を基に想像する力

・互いの考えを知り，共通点と相違点に気づく力

③資質・能力の育成に適した言語活動の設定と言語活動の特徴

・言語活動例：イ「詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動」

本単元では、なぜ「やまなし」が題名になったのかを読み取りの大きな課題におき、教材文のすぐれた表現や叙述に着目しながら個々で読み取り、話し合いによってさらに読みを深めていく。6の最後の場面では、なぜ十二月の「やまなし」が題名になったのかを今まで読み取ってきたこと全てをつなげて自分の言葉で書いてまとめる。

④教材文の特徴

宮沢賢治作「やまなし」を取り上げる。本教材は，児童にとって今まで出会うことのなかった種類の文章といえる。造語や五月と十二月という設定、題名の付け方など一見すると理解に苦しむ材料が多くある。また、「小さな谷川の底を写した、2枚の青い幻灯」とあるように川底の日常を描いているようで何を表しているのか難解な作品である。

しかしクラムボンであれば、「死んだよ」、「殺されたよ」、「笑ったよ」という「ことば」を用いて生と死をくり返し演出していたり、「悪いこと」をしている魚がかわせみによってもっと「こわい所」へ行ってしまう世界を描いたり、生や死についての作者の考え方が表れる「ことば」を用いている。そのため、一つ一つのことばにこだわりながら、読んでいくことで互いの読みを深めていくのにふさわしい作品といえる。

五月と十二月では描き方が大きく違うがどちらも含め自然界の姿である。作者の生き方としては、題名を「やまなし」としていることからも「やまなし」のように、その時がきたら木から落ち、自ら実りを他の生き物に与え、次の命につないでいくようなものを理想としていたと思われる。しかしここで描かれている二つの幻灯は、どちらも他の

命を取り込んで自分の命につないでいく自然界の営みなのである。対比して考えることはできるが、どちらが善でどちらが悪である（または生と死）というようなとらえかたではない読み取りをしていきたい。

○題名「やまなし」について

「やまなし」は、山に自生し秋に実をつける植物である。しかし、言葉として登場するのは、「十二月」の場面だけである。その対象として「五月」の場面に登場するのは、かわせみである。食物連鎖によって命を奪うかわせみとは違い、「やまなし」は自然の恵みである。児童には、最後に題名に立ち返ったときに、ただの植物の実としての「やまなし」ではなく、自然の恵みとしての「やまなし」であると読み取ってほしい。また「やまなし」は、「五月」の場面から存在しているはずで、そのことにも気づけるとよい。

⑤必要な指導・活動

一人一人が語句や文にこだわりながら読み取ったことを各々が出し合って、話し合いをしていくことでより深い読み取りができるようにしていく。比喩、擬声語、擬態語、色彩語表現の工夫、特徴に着目させながら、五月と十二月の対比をとらえ、十二月に登場する「やまなし」がなぜ題名になっているかを今まで読み取ったこととつなげて考えていけるようにする。

⑥今後の学習の活用

物語文「海の命」で、登場人物の人間関係や視点人物・周りの人物の表現や描写から生き方について考える学習。

（２）児童の実態及び指導方針（計 23 名）

①既習の学習内容

物語文「カレーライス」の学習では、登場人物の相互関係や心情に着目し、一つ一つの言葉や文にこだわりながら読み取り、話し合いの中で読みを深める学習を行った。

②児童の実態

≪割愛≫

③指導方針

＜１人読みにおいて＞

○作品に対して児童が最初に感じた思いを大切にし、主体的に読む力を育成するために、初めて見た文章を最初から読み、一語一文、言葉の細部にこだわり、文を丁寧に読み進めるようにする。児童は毎時間ごとに、本時のめあてに沿って本文が書いてあるワークシートを読み、読み取ったことを行間に書き込んでいく。

＜話し合いにおいて＞

○本単元での「話し合い」とは、本文から読み取ったことを小段落ごとに発表し合う。その際に、自分の考えとの違いや共通点に気付いたり、自分では気付かなかった友達の考えを聞いたりすることで読みを深められるようにする。その上で、根拠をしっかりとさせ、「○○だから、～だと思う」など、活発に互いに意見交換ができるようにしていきたい。発言が一方方向にならないようにするために、友達の発言には必ず反応をし、友達の発言につなげて自分の考えを発言できるようにさせる。

○１人読みの際の机間指導では、児童一人一人が読み取ったことの把握をしておき、話し合いで生かせるようにする。また、書き込みができていても話し合いで発言につながらない児童には、自信をもって発言できるように声かけをしておく。

○児童からいろいろな考えが出てくる中で、読み取りを深めたい部分では時間をしっかりととり、軽重をつけて話し合いが進むようにする。
○児童が物語文「やまなし」そのものと向き合えるようにするために、「イーハトーヴの夢」は「やまなし」の読み取りの後に学習する。
○「クラムボン」「かぷかぷ」「ぼかぼか」「もかもか」など独特の擬声語、擬態語の表現、「青」「黒」「白」「銀」など色彩表現、「日光の黄金」「ラムネのびんの月光」など独特の比喩表現に着目し、情景や様子を生き生きと鮮やかにしている効果に気づかせる。
○児童が、読み取ってきたことの振り返りがいつでもできるようにするために、毎時間ごとの板書を模造紙にまとめ、教室に掲示しておく。

3　単元の目標

比喩表現、擬声語、擬態語の面白さを味わいながら、作品世界をイメージ豊かに読み取り、作者が「やまなし」で伝えたかったことを自分の言葉でまとめることができる。

4　評価規準

国語科への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方を知ったりしようとしている。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめている。	比喩などの表現上の特色について気づいている。

5　指導計画（全９時間予定　本時７時間目）

学習過程	時	○ねらい　・主な学習活動	指導上の留意点	評価の観点 関	読	言
つかむ	第１時	**○学習課題を設定し、学習計画をたてる。** ・学習方法を確認し、題名についての印象や題名から考えたことなどを発表する。	・読み取りを始める前に、「やまなし」という題名から受ける印象を出し合う。	○		
		単元の課題：なぜ作者は１２月のやまなしを題名にしたのか、を考えながら読みを深めよう。				
追求する	第２時	**○語り手の視点は子どものかにの視点に重なり、水底から天井を見て描いていることに気づく。**	・かにの子どもの視点になって、視覚的なイメージをふくらませられるようにする。		○	
	第３時	**○かにの子どもらの視点からとらえた、生と死をはらんだ五月の谷川の世界の幻灯であることを読み取る。**	・言葉一つひとつを押さえながら情景を想像して読み進められるようにする。		○	
		○クラムボンを殺した魚が次	・かにの子どもらの怖		○	

	第４時	**はコンパスのようにとんがっているものに連れていかれる世界を読み取る。**	く思う気持ちがよく表れていることに気づけるようにする。			
	第５時	**○お父さんのかにが魚は殺されたと言わず、「こわい所」に行ったというとらえ方をしていることを読み取る。**	・今まで読み取ったことをつなげて五月の谷川の世界をまとめてとらえるようにする。		○	
	第６時	**○五月と比べ、静かな十二月の谷川の様子と、成長したかにの子どもたちの様子を読み取る。**	・五月の川底の世界と比べながら十二月の川底の世界を読み取っていけるようにする。		○	
【本時】	第７時	**○五月のかわせみと比べながら、やまなしが落ちてきて上へ上っていく様子を読み取ることで、学習課題にせまらせる。**	・五月と対比させながら読み進めるようにする。		○	
	第８時	**○五月と十二月を対比して考えながら全体をとらえる**	・今までの読み取りを書き込んだワークシートを振り返りながら考えられるようにする。			○
まとめる	第９時	**○作者の意図をつかむために着目した表現について振り返り、学んだことについて共有する。**	・学習を振り返らせることで、他の場面でも活用できることを自覚させる。	○		

６　本時の展開（７/９）

（１）ねらい　五月のかわせみと比べながら、やまなしが落ちてきて上へ上っていく様子を読み取ることで、学習課題にせまることができるようにする。

（２）準備　６場面ワークシート

（３）展開

学習活動 予想される児童の反応（太い黒字）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 教師の説明や指示及び発問（太い黒字） ◎努力を要する児童への支援　◇評価
〈本時の課題を把握する〉 １　前時までの学習を振り返り、本時の学習場面を確認する。	３分	・前時で読み取った十二月の谷川の世界の様子を振り返り、本時の活動を確認する。

2　本時の課題を知る 五月の谷川の世界と比べながら 十二月の谷川の世界を読み取ろう		
〈課題を追求する〉 3　音読する。（個々→指名） 4　１人読みをし、読み取ったことを書きこむ。	１０分	◎書きこみが進まない児童には、「やまなし」が落ちてきた様子などに目を向けさせる。 ◎書きこみがあっても、なかなか発言できない児童には、書きこみを賞賛し、自信をもって発言ができるようにする。 ・机間指導をしている際に、話し合いで個々の考えが生かせるように、全員の書きこみを把握しておく。 ・疑問を書いている児童には、文章に戻ってさらに深く考えられるように助言をする。
5　「かわせみ」と「やまなし」の表現の違いについて読み取り、比較することで読みを深める。 トブン ・「トブン」のところで、疑問で「トブン」って何？ かわせみだ ・３の場面では、「まるで声も出ず」で、全く声が出てなかったけど６の場面では、「かわせみだ」って声を出してる。 やまなし ・やっと題名とつながった。 ・「あれは、やまなしだ。」のところで、お父さんはやまなしを知っている。お父さんは物知り。 ・「ついていってみよう」のところで、疑問でなんでついていくんだろう？ ・かわせみとやまなしの違いを押さえる やまなし→自然に落ちてきた。他の	２２分	・「ドブン」でも「ボチャン」でもなく実が熟して誰の手も誰の意思とも関係なく自然に落っこちてきた音をおさえる。 ・魚をねらって意図的にいきなり飛びこんできたかわせみとの違いを考えられるようにする。 ・なんでやまなしが落ちてきたかの疑問について子どもたちから意見が出ない場合はもう少し先の話し合いをしてからまた考えていくことを伝える。 （いいにおいでいっぱい→熟しきっていたからおちてきた→誰の手も借りずに、自然の恵み） ・３場面のかわせみをしっかりと振り返っておくことでやまなしとの違いを明確に理解できるようにする。 ・やまなしとかわせみの違いをしっかりととらえられるようにし、作者が題名を「やまなし」としたことに迫れるよ

生命のために生きる。 かわせみ→魚を食べるために自分から飛びこんできた。他の生命の命をうばって、自分の命をつなぐ食物連鎖 6　なぜ十二月のやまなしが題名になったのかを自分の言葉でまとめ、ワークシートに書く。	5分	うにしたい。 実がなる→熟しきって落ちる ・やまなしの命の営みをここでしっかりとおさえておく。 ◇【読む】十二月を五月と対比しながら読み取り、話し合いを通してさらに自分の読みを深めることができている。 （発言・ワークシート・観察） ・今までに読み取ったことを全てつなげて、「かわせみ」と比較することで理由を考えられるようにする。
＜本時の振り返りをする＞ 7　本時の課題を振り返り、解決のために読み取った部分を共有する。	5分	・題名の理由を考えた場面を想起させ、比較することの大切さに気付かせる。